

# 横浜工場

## 化工品事業における“技術・生産のマザープラント”

操業開始	1938年7月（国内工場として2番目、化工品工場として最初に操業開始）
敷地面積	159,000m <sup>2</sup>
生産品目	コンベヤベルト、免震ゴム、防振ゴムなどのゴム関連商品、事務機器用精密部品などを生産



①正門 ②厚生会館 ③化工品技術センター ④化工品試験・開発センター  
⑤免震館 ⑥(株)ブリヂストンEMK

### 化工品事業の主力工場

横浜工場は1938年7月に再生ゴムの工場として操業を開始しました。操業初期は、再生ゴムの他、防振ゴムなどを生産していました。その後、自転車用タイヤやゴルフボールなどの生産も行い、1963年には「化工品」の専門工場として再編されました。以降、化工品事業の主力工場として多くの商品をお客様に向け生産しています。



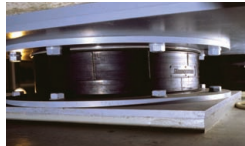
1938年当時の横浜工場

### 工場棟ごとに分かれ、多品種生産

横浜工場では、たくさんの種類の商品を生産しています。主な生産品目は以下の通りです。

#### 〈免震ゴム〉

ビルなどの建築物や橋などの構造物の下に設置し、地震の揺れを低減する商品です。



免震ゴム

#### 〈自動車用防振ゴム〉

車両の振動や騒音を減らすために、エンジンと車体の接合部分などに使用される商品で、車両の乗り心地を改善し、安全性と快適性に貢献しています。



コンベヤベルト

#### 〈コンベヤベルト〉

主に海外の鉱山などで鉱石や石炭、土砂などを輸送する設備に使用される商品です。耐久性、耐熱性の確保に高い技術が用いられています。

### 免震館

2015年6月に、免震ゴムの製品紹介施設として免震館が誕生しました。ここでは模型やパネルを見ながら、免震の歴史や免震ゴムの安全性と仕組み、製造工程について分かりやすく見学することができます。また、シミュレーターで実際に免震の効果を体感いただけます。



### 化工品事業の技術中核

2000年4月に化工品事業の技術開発の中核として、地下に免震ゴムを設置した化工品技術センター(KTC)を、横浜工場に併設しました。さらに、2007年11月に中間免震構造(1階と2階の間に免震ゴムを設置)の化工品試験・開発センター(KRC)を建設し、未来の化工品事業を担う新規技術の研究・商品開発体制を整備しました。



### 環境に配慮した工場を目指して

ブリヂストンは、エネルギー効率の向上及びCO<sub>2</sub>排出量削減による地球温暖化防止を図るため、太陽光発電システムの導入を進めています。KRCには、南面に1,440枚、屋上679枚の太陽光発電パネルが設置され、その発電量は最大で200kw(40w蛍光灯5,000本程度に相当)になります。発電された電力は工場の空調、照明などに使用されています。また、ブリヂストンでは太陽電池の部材のひとつとして、EVAフィルムの生産・販売も行っており、KRCに設置されている太陽電池にもこの部材が使用されています。

横浜工場では他にも、コ・ジェネレーションシステム(注)の導入やゼロエミッション達成など環境に配慮した工場づくりに努力しています。

(注)コ・ジェネレーションシステム:

1つの燃料から電気や熱などの2つ以上の有効なエネルギーを発生させるシステム。ブリヂストンでは、発電時に発生する廃熱を利用して蒸気が発生させ、エネルギーを効率的に利用しています。



太陽光発電パネルシステム



コジェネレーションシステム

### 地域社会の一員として

横浜工場は、周辺を住宅や幹線道路、鉄道で囲まれた工場です。工場内には2つの河川(柏尾川、舞岡川)が流れており、川沿いを中心とした周辺地域の清掃活動には力を入れています。また、毎年夏は納涼祭の開催、クリスマスの時期には国道沿いへのイルミネーションを装飾・点灯、環境に関する課外授業を行う「環境ものづくり教室」を近隣の小学校で実施するなど、愛される工場を目指し、地域の方々との積極的な交流を行っています。

2010年からは、横浜市水道局が実施する「水源エコプロジェクト」に参加しています。水源林となる山梨県南都留郡道志村に「エコピアの森 横浜in道志」をオープンし、定期的に従業員ボランティアによる森林整備を実施しています。



横浜をイメージした正門のイルミネーション装飾



エコピアの森 横浜 in 道志 での間伐活動

## 空気圧点検

ご存知でしたか、タイヤの空気圧は自然に低下します（1ヶ月で約10～20kPa）。走る前に冷えている状態で定期的（月1回）に点検してください。適正空気圧は車種によって異なります。運転席側のドア附近に貼付された、空気圧表示シールで確認してください。

エアゲージをお持ちでない方は・・・



マークのある販売店では、タイヤの安全点検を実施しております。お気軽にお立ち寄りください。



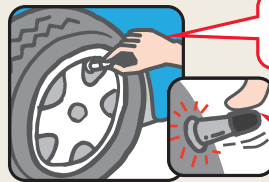
タイヤが冷えているのを確認してから  
走行直後はタイヤ、ホイールが熱くなっている場合がありますのでご注意ください。



**エアゲージ**  
ホイールにあるバルブの口にセットして空気圧の過不足を測ります。



**石鹸水**  
石鹸水をつかって、バルブからの空気の流れがないか確認します。



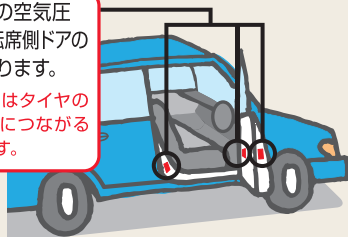
**バルブキャップ**  
点検後は、バルブのキャップを忘れがちです。しっかり締め直しましょう。

バルブキャップはしっかりと締めよう。

バルブの根元も痛んでいないか空気もれがないかチェック！

●空気圧不足の時は、お近くのタイヤショップかガソリンスタンドなどで充填してください。

メーカー指定の空気圧表示シールは運転席側ドアのこの辺りにあります。  
空気圧の過不足はタイヤの性能低下や事故につながるおそれがあります。



スペアタイヤの点検も忘れずに！

## チッ素ガスのお勧め

タイヤの空気圧は時間とともに少しずつ低下します。チッ素は空気に比べこの「自然低下」を抑えることができます。

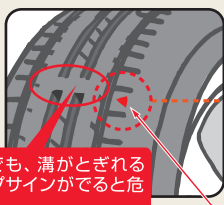
### チッ素ガス充填のメリット

- ① 空気圧に比べ、内圧の低下が少ないため、管理がしやすい。
- ② 内圧の低下を抑えることにより、操縦安定性の維持向上、偏摩耗の抑制、燃費の維持に貢献する。



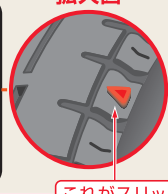
## タイヤの外観チェック

これが摩耗の危険サインです！



1ヶ所でも、溝がとぎれるスリップサインがでると危険です

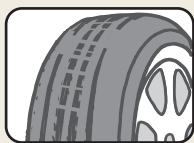
拡大図



これがスリップサイン表示マークです

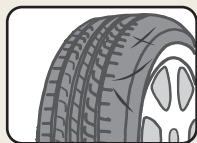
残り溝が1.6ミリになる目安としてスリップサインを設けています。スリップサインが1ヶ所でも出ると使用することを法律で規制されています。

## タイヤチェック、3つのポイント



### ① ミゾ

すり減ったタイヤの雨の日は、制動距離が伸びて危険。ハイドロプレーニング現象も起こります。



### ② キズ

小さなキズが大きなバーストを起こす可能性があります。



### ③ ヒビ

古く劣化してヒビ割れができていないかをチェック。

タイヤの空気圧が適正值より50kPa(0.5kg/cm<sup>2</sup>)不足した場合、市街地で2%程度、郊外で4%程度それぞれ燃費が悪化します。※1

燃費悪化率2%（市街地）、月に1,000km走るとして燃費＝10km/ℓ、ガソリン代＝146円/ℓ ※2 で

なんと ガソリン代 約**3,500円/年**の損失 ※3

更に **CO<sub>2</sub>排出量も増加します。**

出典 / ※1: (社)日本自動車工業会

※2: 石油情報センター2007年8月平均レギュラーガソリン単価

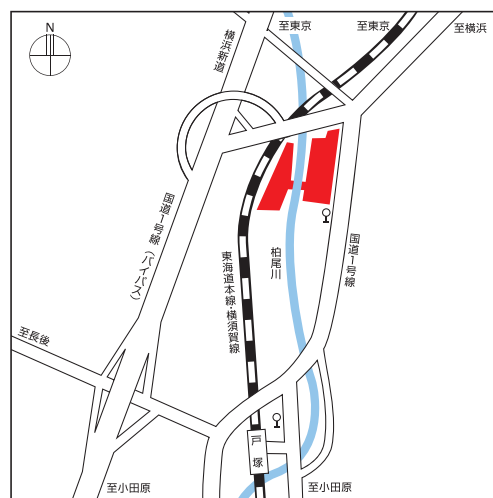
※3: (社)日本自動車工業会のデータに基づきブリヂストンにて試算

当社に関する情報は、下記ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.bridgestone.co.jp>

## 株式会社ブリヂストン

横浜工場  
神奈川県横浜市戸塚区柏尾町1 〒244-8510  
電話 (045) 825-7501



横浜工場 / JR東海道本線・横須賀線 戸塚駅下車  
神奈川中央交通バス 約5分（ブリヂストン前下車）